

防災士について

【説明項目】

- 1 防災士とは
- 2 防災士の認証者数
- 3 防災士資格を取得するためには
- 4 防災士に期待される役割
- 5 合志市防災士連絡協議会の紹介

合志市防災士連絡協議会

防災士とは

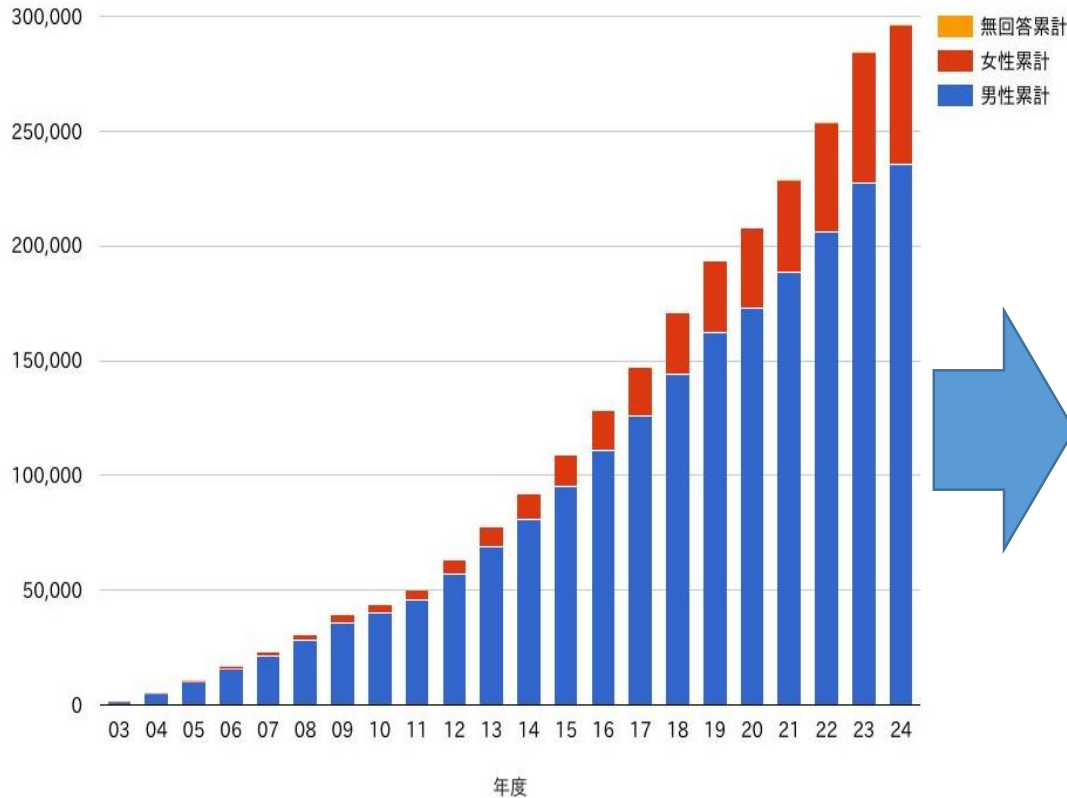
防災士制度は、2003年、阪神淡路大震災を教訓として「人」という資源を活用して**社会全体の防災力を高める**ために生まれました。

防災士とは“**自助**” “**共助**” “**協働**” を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための**十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人**です。



自助	自分の命は自分で守る。 <u>自分の安全は自分で守るのが防災の基本</u>です。災害時に自分の身を守るために日頃から身の回りの備えを行い、防災・減災に関する知識と技能を習得し、絶えずスキルアップに努めます。
共助	地域・職場と助け合い、被害拡大を防ぐ 発災直後における初期消火、避難誘導、避難所開設などを住民自身の手で行うために、地域や職場の人たちと協力して、災害への備えや防災訓練を進めます。防災士は、そのための声掛け役となり、リーダーシップを発揮します。
協働	市民、企業、自治体、防災機関等協力して活動する。 日頃から、行政をはじめ防災・減災に関わる多様な機関と密接に連携し、「災害に強いまちづくり」をすすめます。また、災害発生時には、可能な範囲で被災地支援活動に取り組みます。

防災士の認証者数



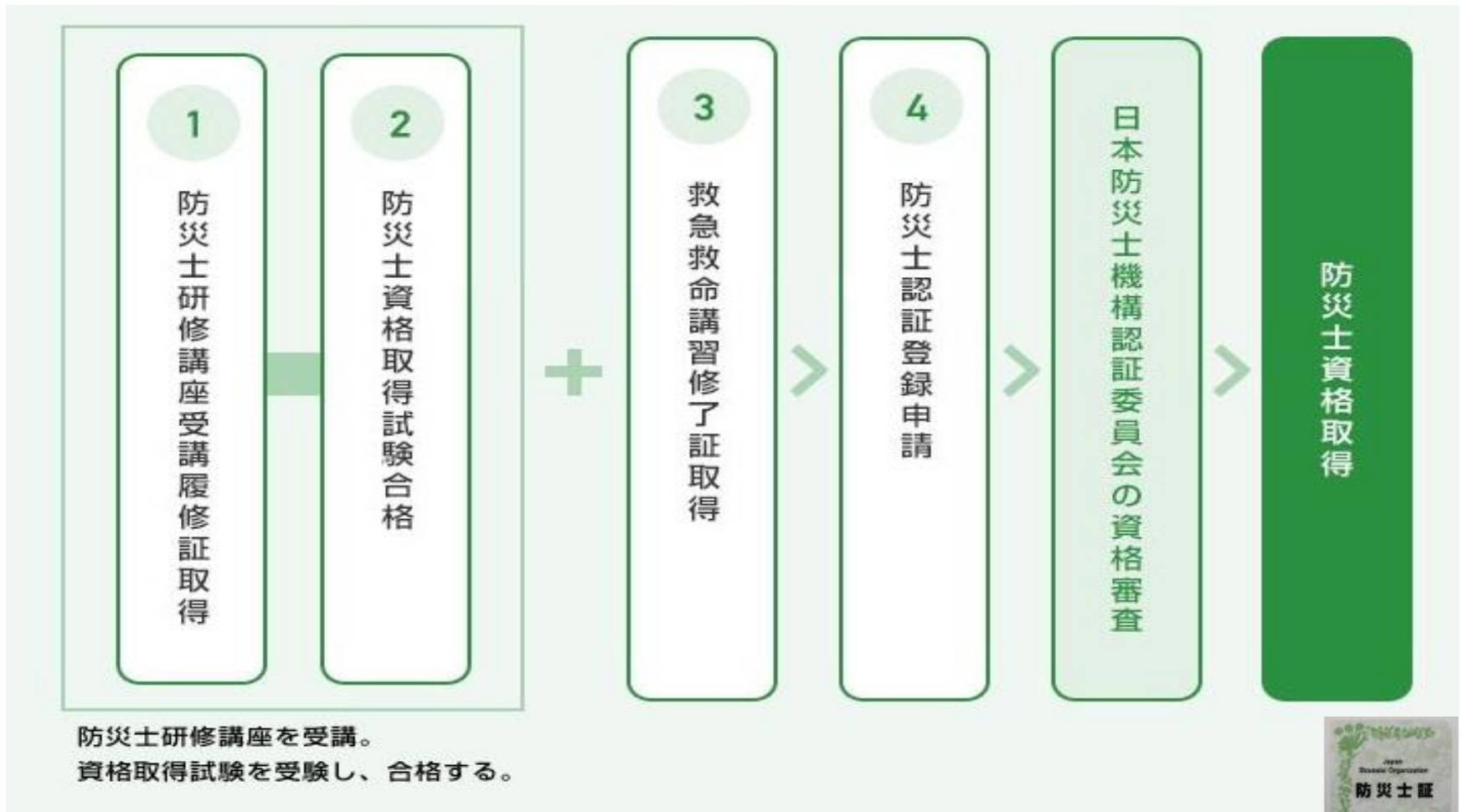
全国の防災士登録者数は、
296,214名
(令和6年9月末現在)

熊本県 4,925名
合志市 185名

○全国の最年少は、**小学2年生:2名**
○合志市の最年少は、**中学2年生:**
2名が資格を取得しています。

防災士養成研修と資格取得試験は2003年から始まりました。最近内外で災害が多発していることを反映して関心が高まり、受験者が急増しています。

防災士資格を取得するためには



- ① 研修講座(3日間)の受講
- ② 研修最終日に、試験が実施されます。
- ③ 消防署、日本赤十字社等が実施する「救急救命講習」の受講修了証を取得します。
- ④ 防災士認証登録は、毎月末に登録申請書の受理を締切り、翌月末に「防災士認証状(A4版 賞状形式)」と「防災士証(カード形式)」を発送いたします。

【参考】

令和6年度の講座の状況(4つの市町で協力で開催)

日時		講師指名	担当講目名
8月31日(土)	8:45~9:10		開講式(オリエンテーション)
	9:15~10:15	気象庁熊本地方気象台職員	地震・津波への備え
	10:25~11:25	気象庁熊本地方気象台職員	気象災害・風水害
	11:35~12:35	気象庁熊本地方気象台職員	災害関連情報と予測・警報
	昼休み		
	13:35~17:00	熊本大学 教授	避難所の設置と運営協力 地域防災と多様性への配慮
9月1日(日)	9:00~10:00	熊本大学 名誉教授	風水害・土砂災害への備え
	10:15~12:25	熊本県自主防災組織支援員	マイタイムラインの作成 自主防災活動と地区防災計画
	昼休み		
	13:15~14:15	菊池広域連合南消防署	広域大規模火災
	14:35~16:55	熊本県危機管理防災	行政の災害対策と危機管理
9月7日(土)	9:00~10:00	日本防災士機構熊本県支部員	防災士に期待される活動
	10:10~10:30	修了式	
	10:30~11:30	防災士認証試験 ※日本防災士機構の運営による	

※ 救命救急講習は、消防署と受講日を調整(7/17、8/14、9/14、9/18の4日間を設定)

防災士に期待される役割

1 平常時の活動

まず自分と家族を守るために、わが家の耐震補強、家具固定、備蓄などを進めます。

それを親戚、友人、知人に広めていくとともに、地域・職場での防災啓発、訓練を実施していきます。だれかが積極的に声をかけなければ、人は動きません。

防災士は、まず自分が動き、周囲を動かすよう努めていきます。必要に応じて、防災講演、災害図上訓練、避難所訓練等のリーダー役を果たすとともに、自主防災組織や消防団の活動にも積極的に参加します。



2 災害時の活動

【自分が被災したら】

その場その場で自分の身を守り、避難誘導、初期消火、救出救助活動等に当たります。東日本大震災や熊本地震においても防災士のリーダーシップによって住民の命が助かったり、避難所開設がスムーズに運んだという事例が多数報告されています。

【被災地支援】

近年の災害では防災士による被災地支援活動が積極的に行われています。具体的には避難や復旧・復興に係るボランティア活動あるいは物資の調達・運搬等各種の支援活動に参加し、時には重機を使ったガレキ処理等専門技術を活かした活動も実施されています。



合志市防災士連絡協議会の紹介

目 的	協議会は、 防災士相互の連携 を図り、防災に必要な知識、技能等を高め、地区の自主防災組織をはじめ、 合志市全体の防災力の向上に寄与 することを目的とする。		
構 成	防災士の資格を得て合志市に在住し、又は勤務する者で、協議会の目的に賛同する者		
設立年月	平成30年8月6日	事務局	合志市安全安心課

編 成 （R6.4.1現在）

会員数:185名

会長:高山祐二郎

副会長 2名

監事 2名

会計 1名

事務局等
局長:安全安心課長
次長:防災対策監

野々島防災拠点
センター支部
支部長以下27名

合志市防災拠点
センター支部
支部長以下23名

黒石防災拠点
センター支部
支部長以下78名

泉ヶ丘市民
センター支部
支部長以下46名

活動概要

- 1 総 会:定期総会(年1回開催)、臨時総会(会長が招集)
- 2 役員会:必要の都度
- 3 防災訓練等への参加(豪雨対応訓練、総合防災訓練、地区の計画する防災訓練など)
- 4 各支部ごとの訓練・会議等の実施
- 5 SP防災士育成プロジェクト
- 6 近隣市町との交流【熊本県北×福岡県南近隣防災士会交流会】
(福岡県:筑後市、大牟田市 熊本県:荒尾市、長洲町、南関町、合志市)
- 7 その他:研修等

合志市防災士配置状況

令和6年4月1日現在

45区／87区:185名

(合志市防災士連絡協議会の登録者数)

凡例

- 防災士あり
- 防災士なし
- 施設等

指定区	人数	指定区	人数	指定区	人数
1 上町	2	17 本村	1	33 芝原	5
2 上庄	3	18 辻	1	34 西須屋団地	3
3 原口	2	19 東	3	35 東大池	1
4 原口下	1	20 城	1	36 コトリック団地	2
5 平島	5	21 生坪	1	37 南陽	2
6 鹿水	2	22 辻久保	2	38 南須屋	6
7 中林	2	23 小池	1	39 陽光台	3
8 後川辺	1	24 黒石	1	40 桜和の丘	4
9 群	5	25 須屋	5	41 みずき台	8
10 黒石原	12	26 上須屋	6	42 九州沖縄農研	1
11 すずかけ台	5	27 堀川	3	43 南原住宅	1
12 笹原	8	28 御代志	4	44 ホレスター光の森	1
13 泉ヶ丘	3	29 若原	3	45 くれぎヶ丘団地	1
14 武蔵野台	7	30 新開	9	本部	11
15 永江団地	13	31 黒石団地	7	計	185

1:25,000

合志市防災士連絡協議会の活動状況①



定期総会



熊本地震震災ミュージアム研修



支部内の訓練模様(マンホールトイレの組立)

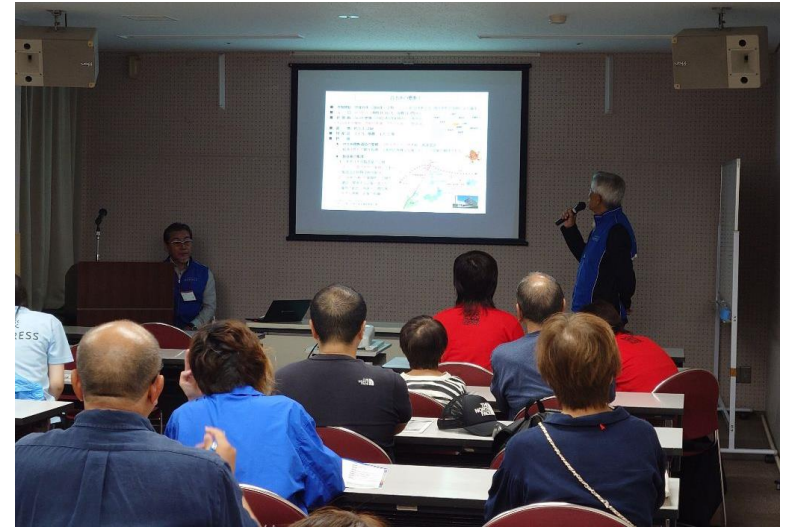


熊本県北×福岡県南近隣防災士会交流会

合志市防災士連絡協議会の活動状況②



防災組織連携連絡会(しほママの講座)



ぼうさいこくたい2024において
SP防災士を紹介(ステージ発表)



(総合防災訓練)段ボールベッドの組立指導



(総合防災訓練)マホールトの市長への説明